



全景。建物は、地上で札幌北3条広場に、地下で「チ・カ・ホ」に接続する。



街の歴史をうけつぎ 広場に再生する。



建物側の公開空地と札幌市北3条広場は連続して使われる。



イベント会場となった札幌市北3条広場



札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング

選評

北海道庁旧本庁舎（赤レンガ庁舎）とその周辺街区は、北海道開拓期からの発展を物語る場所であると共に、これからの札幌の市街地再整備における要となる。したがって、当該エリアにおけるビルの建て替えにおいては、民間の自発性と、行政側の都市整備構想とが課題を共有し、適切な連携のもとに進めるのが望ましい。今回、札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディングが目標に辿り着くまでのプロセスには、定常的な機構としての「北3条広場委員会」と、竣工後の「広場活用推進会議」が官民の壁を越えて機能し、大きな

支えとなった。それにより、民間ビル建て替えと公共広場の整備が同時に達成できたのである。事業者のそれぞれの視点を共通のものに束ねていく機運づくりは、このエリアにおける建築プロジェクト・公共空間整備だけでなく、他都市においても示唆に富む好例となるであろう。

建築主二社と設計チームは、制震構造を採用した、競争力のある高機能オフィスビルゾーンと商業ゾーンを実現すると共に、ビルの随所にアトリウムや眺望ギャラリーなど、オフィスワーカーや来館者が活用しやすい人だまりを設けた。それはビル北側の歩行者空間化した札幌市北3条広場「アカプラ」(今回、歴史的遺産の背景を利用者が理解できる仕掛けを設けている)との東側に接する南北の都市軸・地下街「チ・カ・ホ」(すすきの地区と札幌駅を結んでいる)と、計画上的の連続を図っているためである。これらの公共的なスペースの維持管理・運営では官民が連携しており、都市の活性化のためのフォーメーションが整って

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング 大手町タワー／大手町の森 京都国立博物館 平成知新館 グランフロント大阪 高志の国文学館 ザ・リッツ・カールトン京都 住田町役場 東京スクエアガーデン 流山市立おおたかの森小・中学校、おおたかの森センター、こども図書館 日清食品グループ the WAVE 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 八幡厚生病院本館 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟 Ribbon Chapel 龍谷大学 和顔館 [特別賞]札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング 日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社



建築主 より

150年前と調和した都市計画

札幌三井JPビルディングには人々が佇む場所があります。屋内は二階のアトリウムテラスがその中心です。冬でも外を見ながら温かみを感じながら休める場所を目指しました。屋外は札幌市北3条広場。この場所は開拓使から道内各地へ向かう道路の起点でした。この場所は歴史を背負った特別な場所であり、パワーをもつ。そのような場所では小細工は不要であると教えられました。広場デザインにおいて余計な装飾

や遊びはおさえ、赤れんが庁舎との調和を図ることが重要視され、関係者の意見がまとまりました。完成した北3条広場はあたかも150年前からこのような都市計画であったかのように見えます。夏は賑わいと人が佇む空間となり、冬は雪を蓄えて凍とした空気が流れる。

我々は必然的にこのような広場を作ったんだと感じました。やはり、150年前からこうなることは決まっていたと。



三井不動産アーキテクチュラル・エンジニアリング株式会社
CM本部 プロジェクト推進部長
(前・三井不動産株式会社
北海道支店 次長)

下戸康二郎
Kojiro Shimodo

設計者 より

新たな名所をつくる



鹿島建設株式会社
建築設計本部
副本部長
田名網雅人
Masahito Tanaami

道庁赤れんが庁舎を起点とする文化歴史軸と札幌駅前通のにぎわいの軸が交わる場所に計画した、札幌都心の新名所づくりをテーマとした都市再生プロジェクトです。事業者・市・地元関係者の想いであった札幌駅前と大通以南をつなぐ「まちづくり」の理念を共有し、都市の回遊性を高める仕掛けを整備しました。道庁赤れんが庁舎を中心に一体的な街並みを創造し、この場の魅力をさりげなく高め、親しみやすい居場

所を立体的につなげていくことで、ひと・まちが共に発展することを意図しました。関係者の想いを具現化するにあたり、企画段階からかわる日本設計、外装・内装・外構デザイナーとの協働体制が取れたことで、卓越したアイデアが結実することができました。完成後も日常的な居場所の維持や、季節ごとのイベントを実現する管理運営のしくみが、設計者の想像を超え生き生きとした環境に高めています。

施工者 より

北海道の自然と向き合い共存した814日

当工事は工期短縮と2回の厳冬期施工の中断を避けるべく、1階床の構築を起点として20階約100m高層部の鉄骨躯体工事と、地下3階の躯体工事を同時に構築する2段打ち工法を採用し27カ月の工程で竣工いたしました。

十分な計画と準備で挑むも、2012～13年最初の冬は一晩で最大50cmの積雪となる70年ぶりの豪雪となり、春先からは穏やかな天候でも突風、雷雨に見舞われ常に気が緩めない環境の下、

札幌では近年稀な20,000坪のビルの建設を、プロジェクト参画を誇りと思う道内ワーカーと共に築き上げました。

当社施工は東京と北海道支店のコラボレーションとなり、現場責任者の私を含む東京からの赴任者は、3年間多くの思い出が残る工事となりました。

賑わいを絶やさないアカプラ、チ・カ・ホ、赤れんがテラスに喜びを感じます。



鹿島建設株式会社
東京建築支店
支店次長兼
調達部長
前・工事事務所所長
伊藤 樹
Miki Ito



北3条広場の冬景色

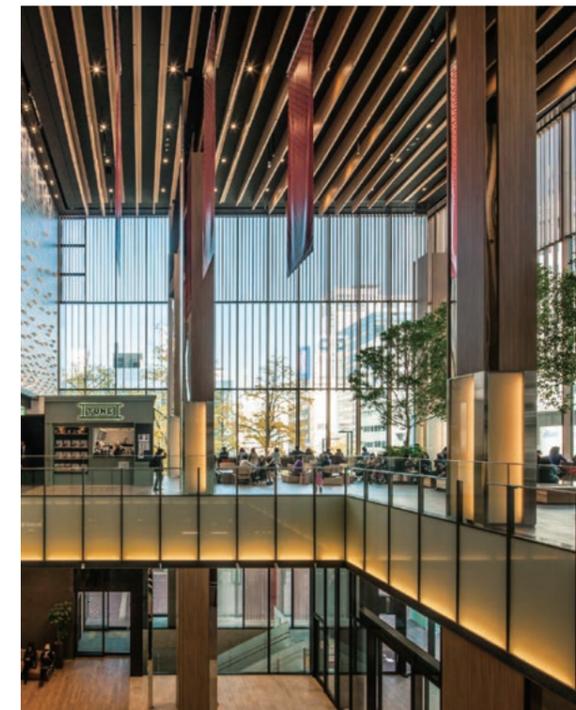
いる。外観においては、高層のオフィス部分をセットバックさせて変化を付けるなど、全体に親しみやすい空気を創出し、高層化が進む札幌の都市景観のあり方を提言するものとなっている。



東西貫通通路に面するオフィスエントランス

地下階には地域冷暖房施設を内包しているが、環境技術の多角的な採用やBCPへの取り組みなどは全国レベルで見ても意欲的なケースである。施工面では二段打ち工法を採用した地上躯体と地下躯体の同時施工や、冬季のコンクリート打設後の養生の工夫によって、工期短縮と品質管理に努めており、寒冷地での施工者の経験の深さが感じられる。総じて、計画から設計施工、維持管理に至るプロセスのなかで、多様な分野の知恵が統合された取り組みである。

【選考委員】
木下庸子・佐野吉彦・栗山茂樹



地下と地上にまたがるアトリウム

計画概要

建築主: 札幌市
三井不動産(株)
日本郵便(株)

設計者: (株)日本設計/鹿島建設(株)
アーキテクトシップ+スズキマコトアトリエ/
スタジオタクシムズ/アースケイブ

施工者: 鹿島建設(株)

所在地: 北海道札幌市中央区北2条西4丁目、北3条西4丁目
竣工日: 平成26年8月1日

敷地面積: 5,517㎡
建築面積: 4,550㎡
延床面積: 68,192㎡

階数: 地上20階、地下3階、塔屋1階
構造: 鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造、
鉄骨鉄筋コンクリート造)